

オチルバティーン・ダシバルバル

〔内田敦之訳〕



ダリガンガ▼(1)に捧げる詩

1

降ったり止んだりのやわらかい霧雨
 ものがたりが活き活きと息を吹き返す夢のような子どもの頃
 運命を共にする親せきが多く
 代々住み慣れた金の揺籃ダリガンガよ！
 雲を突き抜けて差し込む強烈な陽光
 永遠の詩のテーマ 闇夜を照らす月光
 その銀色の丸い花びらに星の光が反射する花々
 白髪の古老たちがその南斜面で永眠する山々
 丸いゲルが建ち ヒツジが草を食む輝く丘
 光を放つ川べり 鳥の鳴き声にたわむれる幼子たち

(1)ダリガンガ 現在、モンゴル国スフバートル県の南部に位置する郡の名前。一七世紀末、モンゴル各地から牧民が集められ清朝皇帝の直轄牧場がつくられた。

無垢な年齢 三羽の黄色い小鳥の巢

叱られて 革鞭でたたかれすねたこと

ああ わがふるさとよ 澄みきった空よ

遠くのほうで わが希望の小鳥がさえずる

掌ほどの地面の土までもが暖かい

わが命が育まれた揺籃

雨に草色が映える 高原の草の香り

ゲルや家畜の風景 物語や伝説の場面

無邪気な幼なじみ ちっちゃいハンダーのほほえみ

英知の花 一面に咲き乱れた詩！

2

くちばしに草をくわえたかわいいニューナイスズメ

真っ白な雲がいつぱい浮かんだ空からの使者

雨のしずくでうがたれた岩の穴

自らのさだめと感覚の神秘的な泉

肘ほどの高さの清水がわき出る

絹のような砂上にわき出るオルギホ▼(2)の白泉

きらきら光るつぶらな目のシャルマーン▼(3)の哀しき調べ

トロイ・バンディ▼(4)の理想を遠くに導いた道

かなたで空色に染まりながら 胸の奥でかすかにきらめく

(2)オルギホ ダリガンガにある地名。「わき出る」という意味の「olgo」は。
 (3)シャルマーン トロイ・バンディの妻の名前。
 (4)トロイ・バンディ 一九世紀はじめダリガンガから輩出し、モンゴル全土に知れた義賊の名前。

老いた賢人たちが祀る神聖なアルタン・オボー▼(5)
 ゆらゆら揺れながら 私の愛の歌にうち震える
 きれいな娘たちのほほえみのように澄んだガンガ湖よ!

幾世代も歌い継がれたジャーハン・シャルガ▼(6)のものがたり
 草原の風から聞こえる祖先のささやき

いかなる時にも敵の侵攻を許さなかった城壁 ふるさと
 いかなる人でも得がたい私のうるわしきダリガンガ!

白苔のむした岩には私の足あとが残っている

銀色のキバシリは私の望みをさえずる

波打った黄色の砂は 私の指紋と

激動を走った民は 私のバラードと!

3

アカマツの枝で居眠りするスズメは愛らしく

静穏な溪谷の主たる山々は心地がよい

秋の夜の静寂には火の番人のものがたり

葉脈に吸いこまれる星々の光は神秘的!

幼馬の鬣に眠った風はなんているにおいがするのだろう

眠る山々に子守歌を聞かせた月の顔は幻想的

ピアノのメロディのように 湖の波は軽やかなダンスを踊る

生まれ故郷の風景 音楽的なガンガ湖がくっきり見える

はるかな銀色の星々が驚くほどこいなきながら

宝石のような優駿ザガルが奮い立つとき

暗闇の中から一条の光を放ち

俊足の荒馬が駆けるように アルタン・オボーが近づくと!

うつくしい娘のほほえみ 愛する人をいだく腕のように

山河をすべて結わえるように流れる

黒金城のごとき山々に囲まれて私は歌う

生まれ故郷にイヌワシが自由に羽ばたき舞い上がる!

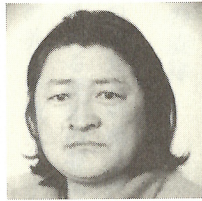
国境のほうからカラスが鳴いてその影を落とそうとすれば

いきり立つイヌワシが稲妻の如く羽ばたいたのを忘れない!

蛇をわしづかみにした高く飛ぶチョウゲンボウの威容を

騎乗の人の心にささやく空は平穏そのものだ!

(一九七九年)



オチルバティーン・ダシバルバル Ochirbatyn Dashbalbar (一九五五〜一九九九年)

作家紹介

現在のスフバートル県ダリガンガ郡生まれ。ゴリキー文学大学を卒業、一九七〇年より創作を開始。一九八八年作家同盟賞、一九九八年国家賞を受賞。主な作品は「生あるうちに互いに愛し合え、人びとよ!」「東方の歌声」「川の水は静かに流れる」など。一九九六年の総選挙で国家大会議に議席を獲得し、モンゴル伝統正義党を立党するが、民主同盟連合政権の腐敗を追求していた一九九九年一〇月病气により急逝。

(内田敦之)

作品解説

清朝時代、御用牧場がつくられたダリガンガの豊かな自然を賛美するだけでなく、国境地帯にあって戦いの歴史や故郷が生んだ義賊トロイ・バン
 デイ、古き伝統に対する誇りを詩情豊かに描写しながら故郷に対するゆるぎない想いを伝えている。

(内田敦之)

(5) アルタン・オボー ダリガンガにある地名。「黄金のオボー」の意味。オボーは土地の神を祭る石の堆積物のこと。

(6) ジャーハン・シャルガ 「小さな淡黄色の馬」の意味。ダリガンガ地方の有名な民謡のひとつ。

МОНГОЛЫН УРАН ЗОХИОЛ

Г а р ч и г

Өмнөх үг

Нэгдүгээр бүлэг: Орчуулга

I. Монголын орчин үеийн яруу найраг

Ч. Чимид

Б. Явуухулан

Д. Пүрэвдорж

Р. Чойном

О. Дашбалбар

Б. Лхагвасүрэн

Ц. Хулан

Б. Галсансүх

Д. Банзрагч

〈Өвөр монголын яруу найраг〉

На. Сайнчогт (Сайчингаа)

Монголчуудын хэрэглэж ирсэн бичгүүдийн тухай

II. Монголын хүүхдийн уран зохиол

Ж. Дашдондог 〈Долоон бөхтэй тэмээ〉

Д. Гармаа 〈Хөгжөөнтэй туужууд〉

Аман зохиол

III. Монголын орчин үеийн шог зохиол

Б. Цэнддоо 〈Онигоо〉

Жужиг ба уран зохиол

IV. Монголын орчин үеийн өгүүллэгүүд

Д. Төрбат 〈Могойн чуулган〉

П. Баярсайхан 〈Хөх туурийн тал〉

Шаг. Цэнд-Аюуш 〈Хэцүү амьтан〉

Ч. Лодойдамба 〈Миний хээр (хуучин цэргийн яриа)〉

Ц. Дамдинсүрэн 〈Бух Гомбо〉

Д. Нацагдорж 〈Харанхуй хад〉

〈Хальмагийн уран зохиол〉

Балакан Алексей 〈хүрвн зург〉

〈XIX зууны Монголын уран зохиол〉

Инжаннаш 〈Нэгэн давхар асар〉

モンゴル文学への誘い

2003年10月28日 初版第1刷発行

編 者 芝 山 豊

岡 田 和 行

発行者 石 井 昭 男

発行所 株式会社 明石書店

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-14-11

電 話 03 (5818) 1171

F A X 03 (5818) 1174

振 替 00100-7-24505

<http://www.akashi.co.jp>

組版 明石書店デザイン室

印刷 モリモト印刷株式会社

製本 株式会社難波製本

(定価はカバーに表示してあります)

ISBN4-7503-1808-6